



在宅での生活を
続けるために

看多機でしかできない魅力・強み!

看護小規模多機能型居宅介護 三丁目の花や

看護多機能型居宅介護（三丁目の花や）の特徴

- ・「通い」「泊り」「訪問」の各機能を柔軟に組み合わせ、本人の状況や介護者の都合に合わせてサービス提供時間や方法を変化させることができます。
- ・通っても泊まっても家に訪問に来るスタッフもいつも顔なじみ。泊まる場所も、通いと同一空間です。
- ・民家を利用することで落ち着いた環境で、24時間、365日切れ目なく暮らしを支えていく環境をお作りします。
- ・現在登録者17名 平均要介護度3.5
- ・そのうち
 - ・（泊りサービス利用者様7名）
 - ・（車椅子利用者9名）
 - ・（スライディングボード利用者3名）
- ・訪問看護があり、看取りを行っている
- ・→令和3年は3名の看取り

4つのサービスを
1つの看多機事業所が提供

看多機事業所



ノーリフティングケアの経緯

医療ニーズが高い利用者が増え、
抱え上げる、力任せの介助になってしまう...

- 力のある男性職員しか介助できない
- 腰に負担がかかる
- 職員の腰痛の増加 職員の70%が腰痛

令和3年 4月より スライディングボード・シートを導入!!

今年のスローガン みんなに優しいノーリフティングケア
新たにノーリフティング委員会を立ち上げ、県事業に申し込み、

ノーリフティングケアを開始する!

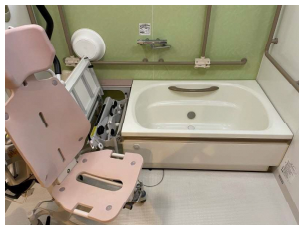
利用者別ノーリフティングケア必要場面の再確認を行なう

利用者別ノーリフティングケアの必要場面 三丁目の花や

氏名	年齢・性別	介護度	ADL(補助)		現状	ADL(在宅)	現状	分科を範囲で記載				
			現状	ADL(在宅)				ADL(在宅)	分科を範囲で記載			
K〇	〇南	男性 77歳	2	A1	B	Ⅲa	食事	自立	食事	自立	ノーリフティングケアの課題	理想とするケア
							移乗	見守り 付添い	移乗	見守り 付添い		
							整容	自立	整容	自立		
							トイレ	付添い	トイレ	付添い		
							入浴	付添い	入浴	付添い		
							歩行	歩行器	歩行	杖一本		
S〇	〇子	女性 91歳	2	A2	I	食事	自立	食事	自立	ノーリフティングケアの課題	理想とするケア	
						移乗	見守り 付添い	移乗	自立			
						整容	自立	整容	自立			
						トイレ	自立	トイレ	自立			
						入浴	見守り 付添い	入浴	なし			
						歩行	歩行器	歩行	歩行器 杖			
M〇	〇美	女性 89歳	1	A1	E	食事	自立	食事	自立	ノーリフティングケアの課題	理想とするケア	
						移乗	見守り 付添い	移乗	見守り 付添い			
						整容	自立	整容	自立			
						トイレ	自立	トイレ	自立			
						入浴	なし	入浴	見守り 付添い			
						歩行	歩行器	歩行	歩行器			
O〇	〇氏	女性 83歳	4	Bc	IV	食事	見守り 付添い	食事	見守り 付添い	ノーリフティングケアの課題	理想とするケア	
						移乗	歩行	移乗	歩行 車椅子/歩行器			
						整容	全介助	整容	全介助			
						トイレ	簡便 トイレ	トイレ	付添い			
						入浴	リフト	入浴	全介助			

現在の（三丁目の花や）の福祉用具一覧

研修前



リフト付きシャワーキャリー

研修後



スライディンググローブ



スライディングボード2種類



パスボード



スライディングシート3種類

スタッフの取り組み

・委員会メンバーが研修で勉強した内容を月末カンファレンス時に全職員に伝える
カンファレンス時に時間を設け実技研修会を行った（4回）
→委員会の周知

・3か月に一回腰痛アンケートの実施
→重度の腰痛持ち職員の業務変更・個別の面談を実施

・日中の業務の際個別にケア方法の指導も行っている

アンケートではトイレ・
入浴介助時に腰痛が多い



・毎日、朝屋の申し送り時腰痛予防体操を行う
・首回りの筋肉から広背筋にかけての筋肉を伸ばす
・肩甲骨を伸ばす
・太ももの筋肉を伸ばす

三丁目の花やの強み！

三丁目の花やは1フロアでお互いの動きが把握しやすい

メリット①

直接指導やケア方法の確認ができる！

メリット②

職場内の多職種との連携ができています！



カンファレンスに出られなかった人職員も安心！
毎日ケアの確認を個別で行いました

介護職・看護師・ST・OT・等…



毎日の申し送りは多職種が必ず集まって話す機会があります

ノーリフティング委員会設立当初は
職員が安全に介護できるように、職員のために委員会を設立した

職場でノーリフティングケアが浸透していき

いつまでも利用者・家族が在宅で生活できるように安心して生活するには

在宅での福祉用具導入は不可欠！！！！

ご家族と話し、理解を得、

ご家族に福祉用具を体験してもらう

訪問・送迎時4名のご家族に福祉用具を試し、
3名が福祉用具を導入できた

利用者Yさん

要介護度5 女性 68歳 利用年数12年

- ・体重約40kg 体格は小さい
- ・右片麻痺 左手は少し握れる程度
- ・移動には車椅子 入浴はリフト浴
- ・日中オムツ、排泄介助はベッド上
- ・定期的なレスパイト入院
- ・自宅にはスライディングボード・シートを導入している
- ・自宅での介助者は旦那さん 体格は少し大きい
- ・Yさんと同年齢 ・週に3回の透析

9

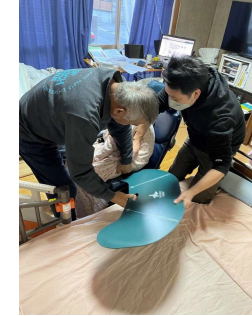
福祉用具の話をご家族にするも、はじめは

- ・抱えたほうが簡単・時間短縮できないか？・・・
- ・覚えるのが大変・・・ という声が上がりました。

時間をかけ職員が自宅訪問の際福祉用具の使い方・便利さ・良さを伝え、在宅での生活が続けられるように・・・



自宅用スライディングボード・シート



職員の指導の下、ご家族が実際に福祉用具を使っている様子

10

自宅に福祉用具を導入した2名の利用者

利用者Mさん

要介護度5 93歳

- ・体重約30kg 小柄
- ・左片麻痺
- ・移動は車椅子 入浴はリフト浴
- ・日中オムツ 排泄はベッド上で交換

介助者は娘さん（介護職） 小柄
トイレで立たせていたが本人立つ力が無く抱え上げていた

ベッドと車椅子の移乗時に
スライディングボードを導入

利用者Nさん

要介護度5 96歳

- ・体重約45kg 体格良い
- ・左片麻痺
- ・移動は車椅子 入浴はリフト浴
- ・日中オムツ 排泄はベッド上で交換

介助者は娘さん 小柄
年齢と共に体力が低下しトイレ時に立つことが難しくなった

ベッドと車椅子の移乗時に
スライディングボードを導入

まとめ 今後の課題

・利用者別ノーマライジングケア必要場面集を作成し利用者1人1人がどの福祉用具が必要なのか職員同士で確認・評価ができるようになった。

・在宅での福祉用具が導入できたものの家族の方が適切な使い方ができているかの確認ができていないため家族との話し合いの場が必要と思われる

目指す方向

全職員が安心して働ける環境づくり
新しい職員が入ってきた際腰痛のない働きやすい職場

・利用者が安心して通い・泊り・訪問のサービスを受け、ご家族がいつまでも自宅で一緒に無理なく生活ができるようサポートしていきます

11